

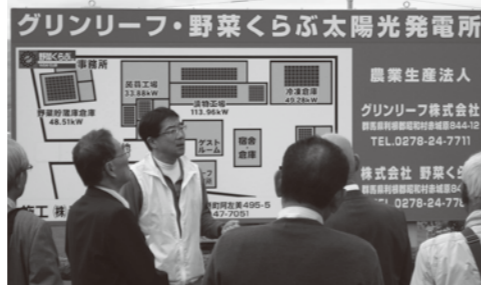
株式会社 野菜くらぶ

宮崎 昌宗

㈱野菜くらぶは、群馬県利根郡昭和村赤城原に本社を構える農業生産団体です。売上高15億4750万円、資本金3920万円、出資者56名、生産者数60名（農業法人14法人含む）で、主な販売先は、生協、宅配業者、小売業者、外食業者、仲卸業者で年間80～90の取引先に出荷し、基本的に契約栽培で行っています。つまり、JAや青果市場に出荷はせず、すべて独自の販売ルートを持っています。また、農産物の栽培だけでなく、グループ企業でコンニャクや漬物の栽培・加工・販売（6次産業化）や、太陽光発電による電力事業にも取り組んでいます。

創業は、いまから20年程前に有機農業をする目的で3名の仲間から始まり、現在60名の生産者で組織されています。しかし、すべての農産物が有機JAS認証取得ではなく、約50品目中の7品目（売上高の約3.3%）です。この農業生産団体の特筆すべきところは、産直での通年出荷体制で、現在の生産計画から販売までの仕組みで、群馬県だけでなく青森県・静岡県・岡山県など各地にネットワークをつくり、安定供給体制を確立していることと、新規就農希望者を受け入れ、『独立支援プログラム』として人材育成を行っていることです。

もちろん、育った新規就農者（現在6名）は、団体の一員としてネットワークに加わります。団体は、供給体制の更なる強化となり、新規就農者は販売先を確保し、安心して栽培できるメリットがあります。この団体の理念である『人づくり、土づくり』に農業の可能性を感じました。



JA全中と農林水産省

荒牧 弘敏

「農業・農協改革」に関する意見書を平成26年9月定例会で提出した経緯から農林水産省・JA全中における研修会を行いました。

政府は、「農協改革の目的は、『農業・農村の発展』を目指し、農業者、特に担い手からみて、農協が農業者の所得向上に向けた経済活動を積極的に行える組織となる改革をすることが必須であり、また、高齢化・過疎化が進む農村社会において、必要なサービスが適切に提供できる組織とすることも必要である。今後5年間を農協改革集中推進期間とし、自己改革を実行するよう強く要請する」としています。

この要請を受け、JAグループは自己改革の基本的な考え方として、基本目標を「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」を掲げ、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、多様な農業者のニーズに応え、担い手をサポートし、農業者並びに地域住民と一体となって「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現していくための自己改革に取り組むことの説明を受けました。

説明終了後、今後の農業の方向性について様々な意見が出されましたが、「地域住民・農業者・行政・JA」が一体となり、地域の保全や農地の維持に取り組んでいかなければならないと考えさせられました。



国会議事堂

高畑 廣視

国会は、国民の主権を正当な選挙で委ねられた国会議員により組織されています。日本国憲法では、国会を「国権の最高機関であって、国の唯一の立法機関である」と定めており、内閣総理大臣の指名、予算の議決、条約の承認など重要な役割を担っています。また国の基本方針や国際社会の問題から、国民生活に関する身近な課題まで幅広く議論するなど、常に「国民の代表機関」なのです。

こうした国会活動の行われる主たる場所が国会議事堂です。現在の建物の建設は、大正9年から昭和11年まで17年間かけて竣工され、敷地面積約10万㎡、建物延面積5万3千㎡、中央塔の高さは65mあり、建築費は当時のお金で2,570万円、現代で換算すると600億円と言うことです。

2時間ほどかけて見学しましたが、世界的なテロの影響もあってか、周辺の道路をはじめ、議事堂内の各所に警官や警備員が配置され、一般人は金属探知機の検査など、警戒は厳重を極めていました。



議員研修

平成26年11月5日(水)～7日(金)

上毛町の基幹産業は農業であり、上毛町議会も町が将来を見据えた農業の取り組みを模索している状況にあると伺っています。

現在の規制改革の農業改革の3つの柱（農業委員会などの見直し・農地を所有できる法人の見直し・農業協同組合の見直し）についても、偏らない公平な立場で学ばべきと考えました。

今回は、都市圏周辺部で様々な取り組みをしている農業者・農業団体・農業法人の実態を確認・把握し、町農政に反映できることを目的に研修しました。

株式会社 ヤマキ

峯 新一

埼玉県児玉郡神川町で創業110年を超える（株）ヤマキを視察訪問しました。

ここは安心、安全の製品づくりをモットーに有機栽培農産物を栽培し、使用しています。主に味噌、醤油、漬物、豆腐などを生産、販売をしています。「原料すべてにこだわり、また、代々受け継がれた昔ながらの醸造法により千二百年の味をかもし出している」と評されています。

現代にはそぐわないかも知れませんが、これからの食と安全、新しい農業を考えた時、次世代につなげてほしいと思うすばらしい会社でした。



世界遺産「富岡製糸場」

宮本 理一郎

群馬県では古くから養蚕・製糸・織物といった「絹」に関する営みが盛んで「絹産業」に関する文化遺産が数多く残っています。この中でも「富岡製糸場と絹産業遺産群」は平成26年ユネスコで世界遺産として登録されました。

富岡製糸場では、フランスの技術導入から始まり、日本独自の「自動操糸機」の実用化まで、製糸の技術革新が絶え間なく行われ、高品質な生糸の大量生産に貢献しました。日本が開発した生糸の大量生産技術は、一部の特権階級のものであった「絹」を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊かなものへと変えていったところに、その世界遺産としての価値があると評価されています。

官営工場として創業され、やがて民間の企業へと払い下げとなりましたが、115年間にわたり休むことなく製糸工場として活躍を続け、一貫して生糸の生産が行われました。今日までほとんど形を変えずに保存管理されており、建造物は創業当時のままで残されています。明治政府の殖産興業政策の一端を観ることができ、また日本近代化の幕開けを感じる事もできて大変意義ある視察でした。

